

事業番号	09 04 03	事業改善シート（令和4年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	花き振興事業	部局	農政部	課・室	園芸畜産課		
		実施期間	H8 ～	E-mail	enchiku@pref.nagano.lg.jp		
総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン2.0）との対応関係							
重点目標	①労働生産性						
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進						

1 現状と課題

本県の花き生産は、夏季の冷涼な気候や標高差を生かし、多種多様な切り花と鉢花が生産され、全国有数の花き産地であるが、高齢化による担い手不足や連作障害の発生などにより生産量の減少が進んでおり、高品質安定生産を可能とするより高度な栽培技術を導入し、経営の安定化を図ることが課題となっている。

また、花は嗜好性が高いことから価格変動が大きく、アフターコロナで消費動向が変化しており、花の消費を高める新たな需要拡大が課題となっている。

2 事業目的

花き生産者の経営安定化のため、資金造成による経営の下支え、花き生産量の増加を図る。また、花の消費拡大のため「花のある暮らし」の定着を推進する。

3 予算のポイント・主な取組（当初予算又は補正予算時の実施予定）

①特産花き生産出荷安定資金造成

県主要6品目の価格安定のための長野県、JA全農長野、生産者による資金造成



花き関係者と連携した研修会の開催

②県主要品目の生産力強化に向けた技術実証及び普及

現地機関、試験場と連携した産地実証試験と検討会の開催



花育教室（講師：花き生産者）

③「花のある暮らし」の推進

県内主要駅等での継続的なプロモーション活動や小中学生を対象とした花育教室の開催

4 成果指標

（推移の凡例 ↗：改善 ↘：悪化 →：変化なし —：数値なし）

No.	指標名	単位	R2年度		R3年度		R4年度		R4年度目標値	達成状況	設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移				
①	出荷安定資金の造成率	%	100	100	→	100	→	100	達成	花きの経営の下支えに必要な最低条件を確保するため指標として設定。セーフティネットを確実に造成するため、100%を目標値とした。	
②	主要花き生産額の増加	億円	43	43	→	51	↗	44	達成	今後、需要が見込める主要花き（トルコギキョウ、アルストロメリア）及びその他花き（草花類等）の生産強化に向け、重点的に強化を図る品目を選定して設定。過去の傾向を分析し、目標年度に5%以上伸ばすことを目標として設定した。	

5 事業コスト

（単位：千円、人）

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)			
R4年度	0	8,560	0	8,560	4,260	8,491	1.5
R3年度	0	8,936	0	8,936	4,636	8,816	2.1
R2年度	0	9,830	△468	9,362	4,532	8,250	2.1

事業番号	09 04 03	事業改善シート（令和4年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	花き振興事業		部局	農政部	課・室	園芸畜産課	

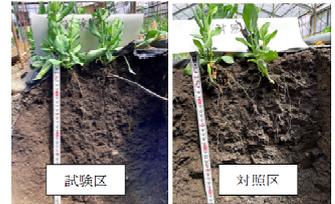
6 主な取組実績と成果

①特産花き生産出荷安定資金造成

・県主要6品目の価格安定のため、長野県、JA全農長野、生産者により、資金造成率100%を達成し、セーフティネットを確実に構築することができた。

②県主要品目の生産力強化に向けた技術実証及び普及

・トルコギキョウついで、土壌病害対策や高品質化に関する4課題の実証試験を行い、成績検討会(12月)、R5年度計画検討会(2月)を開催した。検討会では、生産者、JA技術者、農業農村支援センター、県試験場研究員、農業技術課専門技術員が参加し、実証技術の効果確認、課題を共有することにより、普及に向けた対策を検討することができた。



トルコギキョウの地中加温試験

③「花のある暮らし」の推進

・県内の小中学校35校（児童生徒4,525名）で花育教室を開催した。花育教室を受けた児童生徒の家庭に行ったアンケートでは、花育教室後、15.3%の家庭で花の購入回数が増加した。
・長野駅及び松本駅改札口において、年間を通して旬の県産花きの展示、また、大阪駅、神戸空港において、花束を配布し、県産花きのPRを行った。



神戸空港での県産花きPR

7 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	出荷安定資金の造成率	R3年度推移	→	R4年度推移	→	達成状況	達成
JA全農長野、生産者と連携をとり、計画通り資金造成率100%を達成することができた。							
指標②	主要花き生産額の増加	R3年度推移	→	R4年度推移	↗	達成状況	達成
<ul style="list-style-type: none"> ・トルコギキョウの土壌病害対策の理解が深まったこと、アルストロメリアの生産量が増加したことにより生産額が増加した。 ・新型コロナウイルスの影響により縮小していたイベント等の需要が回復したことにより単価が上昇した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大状況下において、家庭内需要や若い世代の花き購入額が増加した。 							

8 今後の事業の方向性

(1) 令和4年度の実績、成果指標の分析及び県民の意見等を踏まえた課題
<ul style="list-style-type: none"> ・主要品目の生産力強化については、現地の課題を解決する技術の普及を推進し、高収量・高品質化を図るため、生産者、県試験場、農業農村支援センターと連携することが必要。 ・花のある暮らしの推進については、生産者、流通事業者、生花店等、花き関係者が一丸となって、生産から販売まで取り組む必要がある。 ・新需要創出、花き文化定着のため、若年層への花育教室は、継続して取り組む必要がある。
(2) 翌年度以降の事業改善の方策
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大により縮小していた現地検討会および研修会を開催し、生産者、県試験場、農業農村支援センターによる情報交換を密にする。 ・花育教室について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施校へ花材とテキストを送付し、学校独自に授業を開催していたが、R5年度からは、生産者や生花店技術者を講師として派遣し、花き生産の担い手育成や花き装飾文化について児童生徒の理解をより深める内容とする。

事業番号	09 04 03	細事業一覧（令和4年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	花き振興事業		部局	農政部	課・室	園芸畜産課	

細事業 No.	細事業名	R2年度 決算額	R3年度 決算額	R4年度 決算額
1	特産花き生産出荷安定資金造成事業	8,100 千円	8,100 千円	8,100 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和4年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	特産花き生産出荷安定資金造成事業	補助金	主要花き（キク、カーネーション、トルコギキョウ、リンドウ、アルストロメリア）の市場価格下落時に価格差補てん金を交付するために必要な資金造成を支援 補助金額8,100千円	

細事業 No.	細事業名	R2年度 決算額	R3年度 決算額	R4年度 決算額
2	信州花き生産力強化事業	0 千円	0 千円	391 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和4年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	県主要品目の生産力強化	直接	産地での土壌病害対策、省エネ対策等の実証試験の実施 実施試験（4か所、佐久、諏訪、上伊那、長野）、検討会開催（2回）	
2	ニーズの高い補完品目・新規品目の検討・推進	直接	イベントでのサンプル配布と消費者に対するアンケート調査実施、花きのトレンド分析に関する研修会の開催 研修会の開催1回	
3	花のある暮らしの推進	直接	小中学校における花育教室開催、長野駅および松本駅における県産花きのPR展示 花育教室35校（4,525名）、駅での展示（2か所、5月～3月、毎週入れ替え）	